

市民意識調査、青少年アンケート結果報告書 ポイント

■ 市民意識調査

1. 朝霞市の「住みよさ」について

- ・ 朝霞市への定住意向は “住みつづけたい” 割合が 8 割を超えている。
- ・ 住みつづけたい理由として、「今の住まいに満足だから（住宅が広い、新しい）」の割合が最も高く、2 割を超えている。
- ・ 一方、市外に移りたい理由として、「買い物など日常生活が不便だから」の割合が最も高く、1 割を超えている。

2. 日頃の地域との関わりについて

- ・ 近所との日頃の付き合いは、「会えばあいさつ程度はする」割合が最も高く、5 割を超えている。「近所づきあいはしていない」の割合は、平成 11 年以降ほぼ横ばいで推移していたが、今回調査では増加している。
- ・ コミュニティ活動への参加では、「積極的に活動している」割合は「自治会・町内会活動」で最も高く、1 割を超えている。

3. 市政について

- ・ 市政に対して “関心がある” 割合が 7 割を超えている。「非常に関心がある」割合は平成元年以降減少していたが、今回調査では増加に転じている。
- ・ 市政に関心がない理由として、「行政にまかせておけばよいから」の割合が最も高い。
- ・ 市政情報入手媒体は、「市の広報紙」の割合が最も高く、8 割を超えている。
- ・ 市への意見や要望の伝達手段は、「市役所の担当課へ行くか、または電話をする」割合が最も高く、4 割近くに上っている。
- ・ 市民の意見や要望が市政に反映されているかどうかについては、「わからない」割合が最も高く、4 割を超えている。
- ・ 行政サービスの維持・充実の考え方については、「収入増につながる施策を充実させることなどにより対応すべき」の割合が最も高く、4 割を超えている。

4. 市の全般的な取組について

- ・ 前期基本計画の分野ごとの取組 29 項目のそれぞれについて、「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた高い割合になっているのは、「ごみ処理」、「市街地整備」、「保健・医療」の 3 項目で、5 割を超えている。
- ・ 「やや不満である」と「不満である」を合わせた高い割合になっているのは、「道路交通」（約 4 割）、「土地利用」（約 2 割）である。

- ・ 「重要である」と「どちらかといえば重要である」を合わせた高い割合になっているのは、「ごみ処理」、「防災・消防」、「保健・医療」、「安全・安心」、「生活」、「道路交通」、「市街地整備」、「子育て支援・青少年育成」、「高齢者支援」、「学校教育」の10項目で、8割を超えている。

5. まちづくりへの市民の参加について

- ・ まちづくりの役割分担は、「市と市民の役割分担を定め、市民参加を進めながら協働で行う」の割合が最も高く、5割近くに上っている。「民間事業者にまかせられる事業についてはなるべく民間事業者にまかせる」、「まちづくりは行政が主体となって行う」割合は、平成16年以降、増加している。
- ・ まちづくりに対する意欲は、「時間があれば参加したい」の割合が最も高く、6割近くに上っている。

6. これからのまちづくりについて

- ・ まちづくりの方向性は、「だれもが安全に暮らせるまち」の割合が最も高く、5割を超えている。「子育てしやすく、学校などの教育環境が整って充実しているまち」割合は、前回調査と比較して、増加している。
- ・ 人口減少・少子高齢化対策は、「妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援体制の構築」の割合が最も高く、4割を超えている。

7. 自由記述

- ・ 政策分野別にみると、「都市基盤・産業振興」の分野の回答数が最も多く、5割を超えている。

■ 青少年アンケート

1. 朝霞市について日頃感じていること

- ・ 朝霞市のまちづくりに “興味・関心がある” 割合は 5 割を超えている。
- ・ 朝霞市が “好き” の割合は 9 割近くに上っている。平成 22 年以降、“好き” の割合は増加傾向にある。
- ・ 朝霞市が好きな理由として、「交通の便がよい」の割合が最も高く、5 割近くに上っている。
- ・ 一方、朝霞市が嫌いな理由として、「買い物が不便である」の割合が最も高く、3 割を超えている。
- ・ 大人になっても朝霞市に “住みたい” 割合は 4 割を超えている。

2. これからのまちづくりについて

- ・ まちづくりの方向性は、「だれもが安全に暮らせるまち」の割合が最も高く、6 割を超えている。前回調査と比較して、「子育てしやすく、学校などの教育環境が整って充実しているまち」、「鉄道・道路などの整備がさらに進んで、交通の便利なまち」割合は、増加している。
- ・ 現在または将来、朝霞市のまちづくりのためにできると思う活動は、「家庭ごみの減量・リサイクル活動」の割合が最も高く、6 割近くに上っている。

3. 地域との関わりについて

- ・ 日頃の地域との関わりは、「近所の人とあいさつをしている」の割合が最も高く、8 割を超えている。
- ・ 困ったとき、悩んだときに相談する相手は、「親」の割合が最も高く、4 割を超えている。前回調査と比較して、「友人」の割合が増加している一方、「相談する人がいない」の割合は減少している。
- ・ 平日によく過ごす場所は、「朝霞市内」の割合が最も高く、8 割近くに上っている。一方、休日によく過ごす場所は、「朝霞市内」の割合が最も高く、7 割近くに上っている。
- ・ 平日の過ごし方、休日の過ごし方ともに、「家でテレビをみたり、音楽をきいたり、スマートフォンで動画を見るなど一人で過ごす」の割合が最も高い。平日では 6 割を超えている一方、休日では 6 割近くに上っている。

4. 自由記述

- ・ 政策分野別にみると、「都市基盤・産業振興」の分野の回答数が最も多く、6 割を超えている。